

水稻品種「にじのきらめき」の追肥量

要約

「にじのきらめき」の追肥量は基肥 N0.8kg/a の場合、N0.3kg/a より増加させても収量に影響しない。しかし、追肥量を多くすることで一穂粒数や登熟歩合の向上がみられたことから、生育量を見ながら、追肥量を調整することで収量性の安定につながると考えられる。また、倒伏のリスクを考えると、総窒素施用量の上限は1.3kg/a程度と推察される。

○ 展示のねらい

水稻品種「にじのきらめき」は、管内で主食用・飼料用共に利用拡大が進んでおり、今後更に拡大が見込まれている。しかし、栃木県での栽培に適した施肥量等については明確になっていない。そこで、麦後栽培が多い安足地域に適した安定多収栽培技術の確立のため、施肥量(基肥 N0.8kg/a に対し、追肥 N0.5kg/a と N0.3kg/a の2水準)の検討を行う。

○ 主な成果

表 生育収量調査結果

処理内容	成熟期	倒伏 程度	稈長 cm	穂数 本/m ²	精玄米重 kg/a	一穂 粒数	登熟 歩合 %	総粒数 百粒/m ²	タンパク %
N1.3	9/28	0.1	77	399	65.0	87	78.3	347	7.9
N1.1	9/27	0.0	79	469	64.2	81	71.4	379	7.9

※窒素施肥量：N1.3(基肥 N0.8kg/a+追肥 N0.5kg/a)、N1.1(基肥 N0.8kg/a+追肥 N0.3kg/a)

移植日：6月9日(麦あと)、栽植密度：18.0株/m²(60株/坪)、追肥時期：7月27日(出穂前17~18日)
タンパク値：S社食味計SREにより調査

追肥窒素量の違いによる収量に大きな差は見られなかった。総粒数は同様に9%多かった。登熟歩合については、追肥窒素量の多いN1.3区の方がN1.1区よりも6.9ポイント高くなった。タンパク値は同程度だった。

茎数不足や葉色が淡い場合等、生育量が不足している場合は追肥量を増やすことで、収量の向上につながると考えられる。

展示までの倒伏はほぼ見られなかったが、取組生産者の展示内容以上の施肥を行ったほ場で、かなりの倒伏が見られたため、倒伏の可能性を考慮すると総窒素量の上限は1.3kg/a程度と推察される。

○ 今後の方向性

J A部会等を中心とした栽培講習会や現地検討会において、情報の共有を図るとともに、栽培暦を作成し配布する。肥料高騰のため、土壌診断や有機物の活用を推進しつつ、適正施肥について働きかけを行う。また、稈長が短く葉が長いため穂が止葉に隠れてしまい、刈取り適期の判断がしづらいことから、適期収穫について重点的に指導を行う。

実施機関：安足農業振興事務所経営普及部 実施場所：佐野市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315